

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和5年12月23日（土） 15：30～16：45
場 所	毛呂山町立毛呂山小学校 A校舎1階コミュニティルーム
参加者等	中学校保護者（毛呂山中学校） 5名
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 佐藤学校教育課指導主事 谷津田教育センター指導主事 市川教育総務課庶務係長 深井教育総務課庶務係主任
発 言 者	内 容
石田課長	これから説明会の方を始めさせていただきます。本日は毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）に関する説明会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。このたび、教育委員会では子どもたちにより良い学校の在り方についての再検討をして学校教育における課題、今後の児童生徒数の推移、必要とされる教室数、既存校舎の維持管理など、こういった教育的課題を解決するために最も望ましい施設形態とその時期を示す、こちら毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）について作成の方を行いました。本日は、この説明会の方で編成計画（案）に関して、色々なご質問の方をお預かりしたいと思いますので、ご協力の方をよろしく願いいたします。また、本日の説明会ですけれども、出席人数の把握をするために予め参加希望者の方を募らせていただいたり、また急遽人数の関係から開催場所の方を変更させていただきましたことに対するご協力の方をありがとうございました。この説明会なのですけれども、撮影や録音の方は控えていただきたいと思えます。ただ、教育委員会の方で、こちら議事の内容をしっかりと議事の方を作成いたしまして、ホームページなど色々ところで公開したいというふうに考えておりますので教育委員会では録音をさせていただきます。また、そのような形で公開するときは、個人の方々のお名前であるとか情報であるとかに関わる部分はわからないようにしてからの公開といたしますので、ご安心していただきたいというふうにも考えております。それでは、毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会を開催したいと存じます。最初に教育長からご挨拶をいたします。
高沢教育長	改めまして、皆さんこんにちは。教育長の高沢でございます。本日は、土曜の午後ということで、貴重なお時間をいただきまして編成計画に関する説明の方をさせていただきます。日頃より保護者の皆様、また地域の皆様には学校教育に色々な面でご支援・ご協力をいただきまして本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。学校の方も昨日をもって2学期が終了いたしました。年末の慌ただしい中、また年始等で子どもたちも

安全・安心に過ごせるように是非地域・ご家庭等での見守りをよろしくお願ひしたいと思います。そんな中だったんですけども、昨日西戸地区で火災がありました。人家や類焼は無かったんですけども、年の瀬の火事ということで、私たちも児童・生徒に関わる何かものがあったらと思って心配したんですけども、それがなく、安心したというよりもこの暮れで事故なく過ごせるようにお祈りしたいと思います。

さて、今回の説明会なんですけども、教育委員会の方では少子高齢化が進む中で児童・生徒により良い教育環境を提供するためにはどのようなものが望ましいのかということで、平成25年度より検討を始めさせていただきました。庁内の関係各機関の皆様にご提言をいただきまして、それをもとに平成30年度、教育員会の考え方を「未来を拓く人づくり～小中一貫プロジェクト～」としてまとめさせていただいて、現在毛呂山中学校区、川角中学校区それぞれの小中3校ずつ、小中一貫教育を推進させていただいております。9年間を見通した教育課程の中で系統性を持った学習活動等の推進をさせていただいております。しかし、この間に小学校の1学級35人学級の実施ですとか、あるいはご案内のとりのコロナ禍によって教育環境も大変変化いたしました。そのために、昨年度毛呂山町小中学校の在り方の検討委員会を設置させていただきまして、委員の皆様から今後の小中学校の在り方についてのご意見を伺いました。環境は人を作ると言われておりますが、毛呂山の子どもたちにとっての環境は人であり、施設設備であり、人とはもちろんご家族、友達、友人、先生などもいますが、子どもたちの成長に関わる多くの方々です。また、学校では児童・生徒への評価の指導、あるいは体系的な学習行事等を指導する先生方の影響も多大であるということは認識しております。さらに、施設設備の方では、学校の教育も含めた環境整備、教材教具等勉強するものに関する全てのものと認識しております。その中で、毛呂山町教育委員会は子どもたちに安全安心でより良い教育環境の中で学習活動を充実させたい、将来の町を担う子どもたちを是非育成して参りたいと考えています。その基本となる小中一貫教育プロジェクトこれを推進して未来に羽ばたく子どもたちを育成させていきたいと思ひます。そのための施設整備についての今日は説明でございます。是非町の考えについて色々な立場からご意見をいただきながら、また私たちの方でもさらにそれを推進するための研究を進めて参ります。本日の会につきまして、是非ご理解をいただくとともに、また貴重なご意見をいただければというそういうお願ひをもって挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

石田課長

ありがとうございました。

本日の説明会に際しまして、職員等の紹介をさせていただきます。

	<p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p>
石田課長	<p>以上よろしくお願ひいたします。 それでは、教育総務課道地副課長より計画(案)を説明させていただきます。</p>
道地副課長	<p>教育総務課の道地と申します。本日はよろしくお願ひいたします。説明会に入る前にお配りした資料の確認をさせていただければと思います。次第、資料、感想記入用紙になります。感想記入用紙におきましては、ご記入いただき、お帰りの時に受付のカゴの方に入れていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。今回の説明に関しましては、この資料を元に進めさせていただきますが、この資料白黒でございますので画面を見ていただいた方がわかりやすい部分がございますので、画面を見ていただければと思います。それでは私の方から小中学校の編成計画(案)について説明させていただきます。それでは、着座にて説明させていただきます。</p> <p>初めに、実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のよりよい教育環境を整備するために、川角中学校区におきましては施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区におきましては施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。</p> <p>平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的にも大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されております。手引きの中では「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える」とされております。学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしましては、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がってしまう、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みやすく社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を</p>

生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられ、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では学校単位でございますが、9学級以上を確保することが望ましいという形となっております。

それでは、子どもたちの置かれている現況について詳しく見ていきたいと思えます。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある学校づくり」に関する参考資料でございますが、こちら生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加していきます。いわゆる少子高齢化です。赤枠でくくってある2060年は2010年生まれ、今の13歳、現在中2の生徒が50代の時になることを示しています。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になります。こちら青が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えているのがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。こちらは現在の状況になります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転しているのがわかると思えます。続きまして、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフになります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況でございます。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人という形になります。こちらは、児童のいる世帯の状況となっております。右側の白い部分が児童のいない世帯になってございますが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っているのがわかると思えます。こちらは家族の中で、対人関係を形成する組み合わせを示したものでございます。2人家族ではもちろん1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなっています。そのため、学校において多様な人間関係を体験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移となっております。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに減少しており、今年令和5年度では1,801人となっており、ピーク時に比べると約34%まで減少しているということとなっております。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推計となります。減少してきた児童生

徒数は、今後も減少していくことが推測されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級となっております。令和11年度以降なんですけれども、光山小学校、泉野小学校の全ての学年で単学級となる見込みとなっております。続きまして、教員数についてでございますが、小学校で校長・教頭を両方含めて事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校はすでに1人となっております。泉野小学校は、令和7年度から、川角小学校においては令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。続きまして、小中学校施設の建築年度でございます。町の小中学校は6校ございますが、見ていただいているとおり全ての学校が建築後40年以上経過している状況でございます。こちらは、小中学校の改修の状況になります。この中で下の赤枠内の大規模改修ですが、学校の中で工事が済んでいるのが毛呂山中学校と川角中学校になります。毛呂山小学校は体育館の大規模改修が済んでいます。今後ですね、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して全て大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会を立ち上げまして、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3クラス以上が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、ここの通学40分以内というのは通学距離にするとおおむね3キロという形で提言をいただいております。続きまして、平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、先ほど教育長からも説明がございましたが、平成30年に未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになってございますので、後ほど資料の方で確認させていただければと思います。

小中一貫教育の導入の主な狙いでございます。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることによって更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それではですね、令和3年度に小中一貫教

育の取り組みがゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思います。

～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～

(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)

今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。

こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の校舎だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の時間でございます。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っていることを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っております。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学への不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じような授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間を分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の更なる充実と、児童生徒のよりよい教育環境整備をするために先ほども一番最初に申し上げましたが、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛

呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。

それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地のため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができます。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。また、一体型・隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率よく学校との協働ができるものと考えられます。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等でございます。まず、川角中学校区でございます。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設し施設一体型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級でございます。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区でございます。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地でございます。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級でございます。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支

援学級を2学級として8学級となっております。毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定となっております。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと。川角小学校と光山小学校については、川角小学校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革などは毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。続きまして、こちら川角中学校の敷地イメージでございます。画面のピンクのところになりますが、増築校舎は校舎の西側・プール横側のあたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保などを検討した結果でございます。また併せて学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保を維持します。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してのスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを、右下になるんですけども、お示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細が検討され決定されていきますが、まずは教育委員会で検討した結果でございます。続きまして、こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までの利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎での教育となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中学生との体格差などにより、ゾーニングなども考慮しての増築校舎の教室整備でございます。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を開始する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものになりますが、イメージとなっております。このような形で、多目的室を整備し、行っていきます。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。続きまして、こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生と一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式

です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室にすべての授業の用意が整っているので、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージでございませう。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備でございませうが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山小学校内の学童保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところとございませうが、お示しいたしてございませう。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、A棟（南側）のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の木質化を考えてございませう。毛呂山中学校校舎のイメージでございませう。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を利用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。今後のスケジュールでございませう。12月から1月にかけて編成計画（案）を説明し、ご理解いただけるように努めて参ります。1月から2月にかけてパブリックコメントを実施し、3月に計画の策定と考えてございませう。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。私からの説明は以上となります。ありがとうございました。

石田課長

それでは、質疑応答へ移らせていただきたいと存じます。質疑に対する回答

	<p>でございますが、着座にてお許しいただきたいと存じます。挙手をいただければご指名いたしますので、お名前を名乗っていただいてご質問をお預かりしたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
A	<p>一番最初の方のところを聞き逃しちゃったんですけど、この2ページのところの子どもが少なくなっちゃうとこういふことが起きますよというお話をいただいたんですけど、もう1回お願ひできますか。</p>
土屋課長	<p>学級数が少ないことによる課題なんですけど、1つ目がクラス替えができない、複数クラスがないのでクラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、3つ目が運動会・文化祭・修学旅行等の集団活動や行事の教育効果が下がる。</p>
A	<p>具体的にどんなことかイメージが湧かなくて。</p>
土屋課長	<p>クラスが無いので運動会も競い合うこともできないし、修学旅行についても1クラスだけだと交流ができなかったりとか、そういったいわゆるコミュニケーション能力だけではないんですけど社会性を身につけるにしても、小っちゃい集団で行くとなかなかそういった教育効果は下がっていくと、社会性を身につける上で、大きな集団になればなるほど色々な協力をしたりとかそういうところがあるんですけど、それが小さな集団では効果が下がってしまう。</p>
高沢教育長	<p>できないわけではなくて、効果が十分に期待できないという意味合ひで効果が下がってしまうということです。</p>
土屋課長	<p>4つ目が、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受けるというところ。5つ目が児童生徒から多様な発言、これが引き出しにくくなって授業展開に制約が生じると。いろんな考え方を聞ける場面が少なくなってしまうというところ。人数が少なくなってしまうというところ。それに付随して、子どもたちにどういふ影響があるかというところなんですけど、集団の中で自己主張したり他者を尊重する経験を積むことができず、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくいというところ。あるいは、児童生徒の人間関係が固定化しやすいというところ。児童生徒が減るので、教員も当然減っていきます。クラスが減ってしまうので教員が減る。それに伴って、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある。先ほどもお話しした切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、そういった機会がなくなってしまう</p>

	<p>う。続いては、進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。高校進学等行ったときには、当然クラスも大きくなる集団になるわけなので、その時になかなか適応できないということですね。あとは、多様な物の見方、考え方、表現の仕方に触れることが難しい。子どもの数が少ないので、そういったところが触れられない。あとは多様な活躍の機会が無く、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいと。機会も限られてしまいます。人数が少ないので、色々な役割を与えられないこともありますので、そういったことが課題として考えられるところです。</p>
石田課長	<p>確認しておきたいことなどありましたらご質問をお願いします。</p>
B	<p>Bと申します。今後のスケジュールのことなんですけども、今度の3月に編成計画を策定して令和6年の4月以降の町の議会で議案になって、そこで承認が得られればっていう流れという理解でよろしかったでしょうか。</p>
石田課長	<p>スケジュール管理についてお答え申し上げます。最終的な確定というのは議会の承認になります。ただ、そこに行くまでに部会の方、統合準備委員会などで話し合いなどしたいと考えております。この編成計画(案)によって、本質的なところ、何年に学校がどういう形になりますというところは計画(案)を確定していきたいと考えておまして、その場合の部会の方では、それを具体化していく中でいろいろ決めていかなければいけないところがあると思います。細かいところというんですかね。具体的にPTA どのようなのか、カリキュラムに対するご質問であるとか、施設や備品のことに対してどのようになっていくとか、通学路に対してどのようになっていくとか、11年から学校の方を開校することを具体化するために色々なご意見をいただきたいというふうに考えております。以上です。</p>
C	<p>Cと申します。これまで色々な広報ですとか周知の方をしていただいております、わかるようでわからなかったりですとかそういったことがありました。今回説明の方をこちらでじっくり受けまして、なるほどなところもわかったところです。実際に学校のところに成長過程に差がありますから、更衣室を配置するということは私もいいなと思おまして、今までのそういった大まかな説明の中ではとても直接お聞きできなかったと思うんですね。そういったメリットをもっとおっしゃって、発信していただくと喜ぶのかなと感じたところです。私の肌感覚で、中学校ということもあるんでしょうけれども、反対している保護者というのはあまり反対だと思っていても町が決めることだからそれはしょうがないよねというか、進めていく中で共有していかなければいけないとか、わからないことを教えて</p>

	<p>いただきたいといったそういった思いの方が多いのかなと思っているんですが、そういった仕組みや制度などの説明と同時に、現場の先生が賛成しているのか、学校を実際に過ごしていく中で同じ方向を見て進めていただいているのかとても心配になっているところです。なので、チラシなどでお知らせしていただける場合には、是非現場の先生の声も載せていただくと安心するのかなと思いました。あと、PTA活動を通じて、本当であればもう少し早く統合するような話もありましたので、中1では小中一緒になった場合のPTA会費の統合もバラバラになっていますから、どういうふうにするかとか、委員会の内容ですとか、地区委員会は毛呂中では廃止している状態ですけども、毛呂小と泉野小では活動している、それをどうしたらいいとか、そういった細かいところを意外とPTAがやっぱり気にしているところです。そういった話し合いも同時進行で同じように進めていただけると保護者も安心しますし、あと卒業してしまう身なのであまり言えないところもあるんですけども、これから上がってくる未就学児のお母さんたちにも一緒に説明していけるといいのかなと思います。</p> <p>聞きそびれてしまって、1点すみません。学童保育所を毛呂小の岩井学童保育所で使用するということでしたけれども、泉野小の泉野学童は残すというお話でしたか。それとも、もう皆さん岩井学童でということでしょうか。</p>
石田課長	<p>貴重なご意見をありがとうございます。まずは、学童の方からお答えしたいと思います。学童の方は、基本的に学童は校内学童の方が児童の安全を確保できるという話で、校内学童として考えております。ですので、川角中学校区に関しましては、小学校とともに川角中学校敷地内の方に増設を考えております。同じような考えの中で、今現在毛呂山小学校の方は、岩井学童が整備されておりましてそちらの方で泉野学童の方も賄えるというところで推移児童数などは推計しております。</p>
C	<p>ありがとうございます。</p>
石田課長	<p>後ですね、今までの周知の仕方や今現在行っている説明会に対するご意見どうもありがとうございます。今までは町の方で、方針ということで委員に対する広聴会を行ってご意見の方をいただいていた。ただ、方針という形ですのでいろいろなところがうすぼんやりしていて、わかりづらいというところがあったのも事実です。そういった中で、今回の策定案のほうは、割といろいろなことがさらに具体的な案として教育委員会の町の考えがより具体的になっていると思います。その具体的ところで説明の方を行っておりまして、色々な方に説明をする中で色々な感想などもございますの</p>

	<p>で、そういったところを皆さんにわかるようにしていきたいというふうに考えている中での今回の説明会に対する案、議事録の周知というところもごございますので、ご理解いただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
高沢教育長	<p>あと、学校の説明。</p>
新井指導主事	<p>小中一貫校の件で学校の現場の先生がどう思っているかというところは、今現在小中一貫教育の方を既に進めているところがあって、今回説明していることを各学校にも回って説明をしているんですけども、先生方みんな意欲的で今すぐにでも、っていうことも言っていますし、それをより継続して充実して、さらに強化していきたいという声はたくさんあがっています。</p>
C	<p>安心しました。</p>
石田課長	<p>P T Aの関係など、先ほど私がお伝えした中にあるようにこれからの統合準備委員会の中で具体的に決めていかなければならないところは話し合いをしたいと思います。ただ、町が直接的に関わる部分と方向性がそうでない部分も当然ありますので協力の方はお願いしたいと思っております。</p>
土屋課長	<p>P T Aに関しましては、私の方も P T A顧問となっておりますので、会長会議や正副会長会議もごございますので、そういった中で積極的に進めていって、どういった形がいいのかというところを一緒になって考えさせていただければと思いますので、是非その時はご協力をお願いいたします。</p>
C	<p>ありがとうございました。</p>
石田課長	<p>他に質問ありましたらお願いいたします。</p>
B	<p>B です。すみません、聞き逃したのかもしれないのですが、統合準備委員会のことでおたずねします。統合準備委員会は4つ部会があって、これの委員になる方は教育委員会とか役場の職員の方ですか。</p>
石田課長	<p>統合準備委員会の方ですね、これから会を立ち上げるにあたって、色々な手続きが必要になります。今その手続きの前ですので、具体的にどなたというようなことはお答えできません。ただ、やはり学校のことですので教育委員会が主導をとりますが、P T Aの方々のご協力というのは是非いただけないものかとも思っております。</p>

B	イメージとしては、昨年やっていた小中学校のあり方検討委員会みたいな、それでもわからないですよ。これから決めるんですもんね。
石田課長	そうですね、具体的にどういうものかというところを今現在でお伝えできないのは非常にお恥ずかしいところなんですけども、このような集まりの中でいろいろな意見をいただいきたいというふうに考えています。
土屋課長	色々な自治体で、この準備委員会というのは設置されています。全く同じというわけにはいかないと思うんですが、一例でいくと学識経験者であったり学校長の、例えば中学校の代表、小学校の代表とかだったりP T Aの中の代表、P T A会長のさらに代表であったりとか、地区の代表者であったりとかそういった方たちを集めていることも多いですし、代表じゃなくてP T A会長全員とか学校長全員とかというところもありますし、そういったところはまたこちらでも考えていくところではあるんですが、そういった形が多いですね。以上です。
B	ありがとうございます。
D	D と申します。スクールバスのことについてお話があったかと思うんですけど、学校の方の敷地内の活用ということでそれぞれ示していただいたと思うんですけど、通学する子どもたちがバスに乗るのは地区を定めて、そこに集合してそこから乗り入れしてというイメージですか。
道地副課長	そうですね、スクールバスに関しましては毛呂山中学校区で言いますと、スクールバスの方は今のところ考えているのは目白台1丁目・2丁目という形になるんですけども、そのバス停とかっていうのは今後の検討という形にはどうしてもなってしまいうんですが、実際にどこかに集まってもらって乗るか、ある程度のところまで行くのかっていう部分については今後詳細を詰めていく形になると思います。
道地副課長	あともう1個なんですけど、今毛呂山小学校の児童さんは帰りの時に学童バスを山の方に走らせていただいているんですけども、今後スクールバスをするにあたって、今度は朝と帰りという形になるので併せて学童バスの方も朝と帰りというふうに考えていますので、基本的にはスクールバスっていう部分で言うと、地区の人数によってという形で目白台1丁目・2丁目という形になりますけども、一応距離が3kmという部分がありますので、その部分目白台1丁目・2丁目以外の3kmを超えているようなところは

	<p>今までどおり学童バスで対応したりという形になります。あとは、学童バスのやり方については今後の検討という形になるんですけども、細かいところで申し訳ないんですけども、町の方で人を雇ってという形でやっていますけども、今後のやり方についてはそういった形の何か委託をしてやるかそういった形のものも含めて検討していくんですけども、どちらにしても今までどおりにスクールバス・学童バスを運行して並行してやっていく形を考えております。</p>
A	<p>Aと申します。聞き逃してばかりですみません。小学校の名前とか校章とかを毛呂山は毛呂小、川角は川小、中学校はそのまま毛呂山中学校を使う。小学校の名前とかが光山とか泉野さんはなくなるのですか。</p>
石田課長	<p>今考えている方向はそのように考えております。</p>
A	<p>集会とかをするときには、小学校は小学校でそっちの歌を歌って、別々に全部が一緒になっちゃうというわけではない。</p>
土屋課長	<p>今回小中一貫校でありますので、いわゆる義務教育学校になりますと小学校1年生から中学校3年生まで1、2、3、4、5、6、7年生、8年生、9年生という形で義務教育学校は1つの学校になってしまいます。1年生で入学して9年生で卒業という。今回は一貫校なので、小学校は小学校で有ります。中学校は中学校で有りますので、校歌も小学校の校歌だし、中学校の校歌。入学式・卒業式も小学校の入学式、小学校の卒業式、中学校の入学式、中学校の卒業式というような形になります。ただ、全校での集会については、これは取り組みの中でやはり先ほどもあった色々な多様な考えだったり、色々な人との触れ合いというような形で考えれば、場合によっては小学生も中学生も交えてやることも計画できますし、通常通りそれぞれで行うこともできると考えております。</p>
A	<p>小学校の授業の時間と中学校の時間ってチャイムは鳴らなくなっちゃうのですか。</p>
土屋課長	<p>そちらもですね完全に今時間はズレているところではあるんですけど、隣接型・一体型にならなくても徐々に徐々に揃えていきたいと思えます。例ではあるんですけど、他の自治体等も考えたときに時間の合わせ方なんですけど、1時間目のスタート、ここでチャイムを鳴らして1時間目の終わりは45分で終わるんですね、中学校は50分なので終わりは鳴らさない。ノーチャイムでいって、2時間目もズレています。開始が当然ズレます。2</p>

	<p>時間目の終わったあとの2時間目休みが終わった時に、小学校は行間休みで休み時間が長いです。中学校は10分しか休みがないので、3時間目のスタートが揃います。なので、ここのスタートは鳴らす。給食の時間も小と中で違うんですね。昼休みが終わった後の5時間目のスタートも揃いますので、ここは鳴らすというような形でやっている学校もあります。こういった同じスタートの合っているところは鳴らして、他は時間や時計を見ながらノーチャイムでやるという形が一般的というか、よくやっている取り組みでもあります。ただ、隣接型の場合は鳴らしても問題はないです。</p>
A	<p>もう1つすみません。小学生は今おっしゃっていたように業間休みがあったり、昼休みは中学生と遊ぶこともあるということですけど、毛呂小と毛呂中は隣同士だから今と変わらないと思うんですけど、川中さんになった時に小学生は思いっきり遊びたいし、中学生は例えばテストとか増えてくると、今日は上のお兄さんたちはテストの日だから静かにね、みたいなそういうふうに協力するのもかもしれないけど、伸び伸びする時間が減っちゃうのかなとか、中学生は中学生で特に3年生とかになるとキリっとした時間も必要だと、お互いが遠慮とか不都合が起きたりとかそのあたりはどうなんでしょうか。対策はあるんでしょうか。</p>
土屋課長	<p>川中の方はグラウンドが毛呂中より全然広いです。ここで先ほどの中学生の普通教室になっていますので、ここでも少し遊べるんですが、ここで遊ばない限りは静かにできてしまうかなと。今の川角中の子どもたちの遊んでいる様子を見てもらったら、この辺でしか遊んでないです。なので、かなり広く使えますので、小学生のエリアと分けて全然使用することは広さ的には問題ない形です。あと体育の時間なんかもここもそれなりの広さがあるので、低学年の運動するくらいなら全然スペースとしては取れる。あとは、武道場があるんですが川角中の武道場って毛呂中の武道場より全然広いんです。なので、全然小体育館として使えてしまいますので、割と施設の遜色なくこちらの立地条件と変わらず使えるというような形なので、そういった工夫も実際にできますので小学生がここで遊んでいる分には全然気にならないというような形になっています。</p>
A	<p>ありがとうございます。</p>
高沢教育長	<p>安全のためには1年から4年生の低中学年の校舎ですので、遊具のスペースはなるべく建物の近くに建てて、ここが職員室になりますので、目も届くところで児童が遊べるようなスペースは確保していく。教室と特別教室棟になりますので、こちらは理科ですとか家庭科ですとか音楽ですとかの</p>

	<p>そういった特別教室になりますので、それに関しての授業等に支障はありません。</p>
石田課長	<p>お願いします。</p>
C	<p>小学校6年生から中学校1年生に上がる時の1番の不安というか、1番手の1つとして部活動を何にするかということがあると思うんですけども、今の部活動体験ですとか見学の時期を設けていただいて大変感謝しているのですが、せっかく近くで部活動を見る機会等もできるかもしれないので、そういった小学校のクラブ活動を中学校と時間はズレてしまうかと思うんですけども、部活動に実際に入って体験できたりとかそういったことを設ける機会とか実際にそういったところ学校は小中一貫のところにはありますでしょうか。</p>
土屋課長	<p>小学校にはクラブ活動ということで週に1回とかやっております。小学校のクラブ活動をどうするかというところは部活動と限定するというふうな形で方針を出しておりますので。部活動についても、場合によっては希望する子については小学校5年生から参加できるようにというところも方針の中では載せてあります。</p>
高沢教育長	<p>体力差等もありますので、運動する部活については体格について当然配慮が必要となります。文化系のクラブなんか、例えば吹奏楽というのも発達段階に応じて必要な楽器等もあると思いますので、十分そこも研究しながらなるべく活動できる機会を増やしていくことによって中学校生活にも馴染めるようにということによってもね、中学1年生で学習の不安ですとか学校生活の不安ですとか、そういったことがないようにするのが小中一貫教育のメリットと考えていますのでそういったことも視野に入れて今後活動ができる環境は整えていきたいと思います。</p>
E	<p>私が小中一貫教育の話を1番最初に聞いた時に、その当時ですと、もしかしたら自分の1番下の子が対象になるかもしれないというような学年だったんですけど、その時に1度思ったのが、5年生と6年生が中学生と同じ校舎になるってことなので、一貫でなければ、小学校5年生と6年生の兄弟がいなければ、中学生と同じところにならないと思うんですけど、それで上のお兄さんとかお姉さんっていい部分を学習する面もあると思うんですけど、1番最初に思ったのはやっぱり知らなくてもいい世界を最初に見てしまうんじゃないかなっていう不安が1番大きかったんです。その、今下の子が中1になったんですけど、肌感でも悪さを覚える学年が早いような気がするの</p>

で、携帯があつたりとか、外部からの情報が入りやすいっていうのもあると思うんですけど、言い方が悪いんですけど、悪さを覚える年齢みたいなのが進んでいっちゃうのかなと思ひまして。この川中の校舎の並びに大体小学生は下から小っちゃい学年で、中学生は下から大きい学年になっているイメージなんですけど、上が1年生で下が3年生っていうような感じなんですけど。それでいくと、小学生の校舎の上が3年生になるのかなって気がして勝手に想像しちゃって、そうするとそこが接することって普段あまりないような気がするの、兄弟がいない限り。だからそうなる私の中では学校生活が不安が結構大きくなってしまふと思ひて。学べることもあるんだとは思ひんですけど、マイナス部分も大きくて、その辺も先生方にご配慮いただきたいかなと。うちの子はもう卒業しちゃったんで関係はないんですけど。あとは、ずっと私たちずっといついつあるかも、いついつあるかもみたいな感じでずっと言われてきて、結局なんかまだ何年、まだ何年みたいなその間、いつあるんだろう、いつあるんだろうみたいな感じでずっと、もしかしたら1月には、なっちゃうかもしれないみたいなずっと不安を抱えつつ、出てくる内容ではやっぱりわからないようなことが多すぎて、ざっくりふわっとしか。今日やっとこれで見させてもらって具体的にわかつた感じなので。特に毛呂中生だったり、毛呂小生だったり、川中生だったりとかは校舎の移動が無かつたりとか棟が変わりなかつたりすると不安はあまりないと思ひんですけど、泉野さんとか光山さんとかはやっぱり不安が大きくなると思ひるので、親御さんもですし、子どもさんもですし、その通学が長くなってしまう方の方々の不安が無いように登校ができるような感じの方がいいかなって。親は具体的なその通学するにあたってどうなんだ、がやっぱり1番心配なところなので。そういう部分を解消できるように周知していただければありがたいかなと。

土屋課長

小学生と中学生が一緒の建物で生活する不安というところであると思ひんですが、おっしゃるとおり、その悪さとか低年齢化っていうのはあると思ひます。その1番の要因はやっぱりインターネットかと思ひます。これだけ情報を入手する時代になってきますと、もはや建物というよりもそちらの機会の方でもう知つている。これは、もう小学校の中でももう問題になっていると思ひます。なんで、こんなことを知つているのっていうところがあります。1つ例ではあるんですが、小学5・6年生とおそらく中3だろうというところで、まさにそうなると思ひます。中3については、私も中学校の教員でもありましたので、3年生になると本当に大人だっていう、1年生から見てきてそんな大人になるのっていうくらい育つていますので、逆にそれがいい効果が出ると感じております。小学校も6年生の隣が1年生だったりするんですね。そういうふうによつて、そうするとやっぱり6年

	<p>生がしっかりしてくるという部分がありますので、そういった効果を狙っていく。悪さという部分というよりも、3年生になると悪さはほとんどないというか、ないと思うんですね。そういったふうに我々もそういうところを意識して子どもたちの育成にあたることも必要でありますので、いい効果ができるようにやって参りますので、是非ご安心ください。</p>
A	<p>ありがとうございます。</p>
石田課長	<p>それでは、開始からお時間が経ちました。貴重なご意見をありがとうございました。保護者の方々から広聴会などでいただいた意見というのは保護者ですので、ご自身のお子さんに対する通学路の設定であったり学校における生活であったりそのようなご意見をたくさんいただきました。そういったものを生かしての今回の説明というふうに教育委員会の方は捉えておりますので、是非またご理解とご協力の方をお願いしたいと思います。では、最後に教育長からお願いいたします。</p>
高沢教育長	<p>本日は、貴重なご時間をありがとうございました。我々の目線ではわからないことだったりとか、あるいは保護者の方だからこそ気がつく点が今後あるかと思えます。また何か埋め合わせがございましたら教育委員会の方までお寄せいただければとありがたいと思えますし、是非お近くの方々へ今日の話はこんな話だったよということで広げていただくとありがたいと思えます。なお、私たちのいただいたご意見やそれから今後の説明会等の中身については、できる限り町民の方にわかりやすく提示できるように準備させていただきたいと思えますので、またその節には確認をしていただければありがたいかと思えます。貴重なお時間をありがとうございました。また今後も私たちの小中一貫教育にご理解いただければありがたいかと思えます。本日はどうもありがとうございました。</p>
石田課長	<p>それでは以上をもちまして、毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）に関する説明会を終了させていただきます。ご協力をありがとうございました。</p>